

「天塩川のハクチョウ」

多寄白鳥を育てる会会長 宮 腰 武 夫

北海道第二の大河，天塩川の今春のハクチョウの初飛来は三月二十日過ぎでした。五月初めにはシベリアへ向けて北帰行しましたが，多いときには三百羽を数えた。ハクチョウの群れの中に，一羽のヒシクイが行動を共にしているのがよく目につき可愛いものでした。

ここには，ハクチョウ以外に多くの鳥が観察されています。四月から五月にかけて，ミサゴが子育てのため天塩川の古川に急降下して，30cmもある，緋鯉をつかんで去るのをよく見かけましたが，最近は余り見ることが少なくなりました。又，オジロワシもよく来ていましたが，これも見かけることがなくなりました。

一昨年あたりからアオサギが増えつづけ，天塩川の右岸の木に営巣し，ただ今子育ての最中で，川岸だけではなく近くの田圃に入り稲を倒すので，気をもんで見えています。十二，三年前までは秋のみ姿を見せていましたが，アオサギが春から来て子育てすることは，考えもつかない現象です。これも過疎のなせる業かなとも思う。羽を広げるとハクチョウより大きく，その三十羽近くが空高く飛翔している姿を見るのは壮観です。

近くの畑のすみで，むじな(たぬき)の親子に遭遇しました。親はすかさず巣穴に逃げましたが，子供(大人のこぶし大の大きさ)が勢いよく走りすぎて，穴に入りそびれて逃げ場を失いパニックに陥っている姿を見て大笑いして帰ってきました。

ここでは，私たちが燕麦(エンバク)などを給じ(餌)をしています，昨年は土別市長さんが慰問に来て，一緒にハクチョウのためにエサを与えました。



【写真1】 天塩川のハクチョウ 撮影 佐藤準一氏



【写真2】 燕麦を与える櫻木士別市長（右），私（中央）